

眼鏡処方まとめ(大まかに)

児童・生徒(弱視がない)場合

両眼矯正視力 = (0.7 ~ 1.0)位になるように！！

初めて

- ・裸眼視力0.7以上で(遠見・近見)学習に困らない 経過観察
- ・裸眼視力0.7以上で(遠見・近見)学習が困る } 眼鏡処方
- ・裸眼視力0.7未満 } 両眼矯正視力 = (0.7 ~ 1.0)位

眼鏡装用経験あり

- ・眼鏡視力(0.7)以上で(遠見・近見)学習に困らない 経過観察
- ・眼鏡視力(0.7)以上で(遠見・近見)学習が困る } 眼鏡処方
- ・眼鏡視力(0.7)未満 } 両眼矯正視力 = (0.9 ~ 1.0)位

小児(弱視がある)場合

調節麻痺下完全矯正！！

- ・生理的トーンズ 0.5 ~ 1.0D 減じる場合あり

例) 帝京大学医学部附属病院の場合 アトロピンは 0.5 ~ 1.0D (屈折異常弱視は 0.5D)、塩酸シクロペントレートは 0.5D 減ずる

成人の場合

片眼矯正視力(0.7 ~ 0.8) 両眼矯正視力 = (0.9 ~ 1.0)位になるように！！

初めての円柱レンズ

- ・完全矯正が基本
- ・C - 1.0D ~ C - 2.0D までで処方(残余乱視は等価球面で補正)
- ・左右差 C - 0.75D 未満で処方(等価球面值が同じ場合は円柱レンズ度数の左右差が大きくてもそのまま処方する場合もある)

球面レンズ

- ・基本的に左右差 2D 未満で処方(左右とも度数を下げるが優位眼が若干見やすくても良い)
(不可能なら頂間距離を操作して拡大・縮小効果から不等像を解消するか、モノビジョン法も考慮)
- ・所持眼鏡より 2D 以上強める場合は、十分な装用練習が必要